

2015 年春学期レポート

日本財団聴覚障害者海外奨学金事業
第 10 期留学奨学生
山本綾乃

Ohlone College

春学期は秋学期と比べ講義の内容が難しくなったのはもちろん、ペースも早くなり、課題の量も大幅に増加しました。最初は戸惑ってしまいましたが、たくさんの方々に助けられたおかげで、自分のペースで勉強することができました。今回も学習面と生活面に分けて報告させていただきます。

○学習面

2015 年春学期は、講義を 4 つ受けました。大学院進学を目標としていたため、多くの書籍や論文を読む機会を増やしたいと考え、Reading を中心に、聴クラスとろうクラス両方を取りました。一方、Writing は Nancy 教授による丁寧なフィードバックが欲しかったことから、ろうクラスを取りました。さらに私の専門であるろう教育クラスも受講しました。どれも私の希望に沿った内容で充実した学期でした。

ろうクラス *Reading, Writing*

Reading は『Lottery』などたくさんの短編小説を読みました。英語の勉強だけでなく、アメリカで有名な小説を知ることができました。

Writing は小説を中心に読み進めました。『Letters My mother Never Read』は、9 章で構成されており、1 章ごとに読み進めながら、それぞれの質問に対して、自分の言葉でまとめる練習をしました。本に書かれている内容を自分の言葉で表現するためには、まず本の内容を理解する必要があります。時々、自分の言葉に説得力をつけるために引用を使うこともありますが、その引用の前後にやはり補足説明をつけることが不可欠だと学びました。

聴クラス *reading 163*

ASL による手話通訳を利用しながら講義を受けました。またクラスメイトが板書のメモをしてくれました。教授やクラスメイトみんなとても理解があり、楽しいクラスでした。例えば、教授は個別で課題内容をより詳しく説明して下さり、クラスメイトは手話に興味をもって挨拶をしてくれました。

このクラスの特徴はグループ活動、プレゼンテーション発表でした。毎週火曜日にグループで単語のプレゼンテーションや小説の小テストがあり、木曜日は単語や章のテストがありました。その他にもオンラインの課題があったので、一つ

の課題が終わっても次から次へ課題が出ました。テキストは春学期で一冊すべて使い切るため、一週間で1章を終える、小説は100ページ読み進めるというハイスピードでやりました。テキストは秋学期にNancy教授のクラスで学習した内容の復習なので、理解の定着として再確認しながら進めました。さらに、私が聴クラスで学習している内容に似たことを、ろうクラスで取り上げて説明して下さいました。他に『Gone Girl』という映画化にもなった小説を読んで、クラスで話し合いました。その他に新聞の記事や雑誌、論文を読んでまとめる課題も毎週ありました。日本の大学では考えられないほど、たくさんの課題が次から次へと出され、初めは戸惑ってしまいましたが、ナンシー先生だけでなく、先輩のチューターも受けながら楽しくこなすことができました。

Deaf Education

聴学生とろう学生混合のクラスでした。Tom 教授はろう者なので、手話を使いながら進めました。そのため、手話通訳は主に聴学生のために音声通訳をし、彼らの発言の際はろう学生に対して手話通訳し、互いの情報保障のためにあるというとても興味深い実践でした。受講生の中には、手話初心者の方の難聴学生もいて、その方のためにパソコン通訳もありました。日本では二人の支援者が二台のパソコンで連携しながら一つの文章を作っていきます。しかしオーロラニ大学では、支援者ひとりのみで打ち、1時間半で交代します。パソコンもとてもユニークな形をしており、どんな仕組みになっているのか興味深かったです。

クラスの内容は、ろう教育の歴史、ろう学校と通常学校、手話と口話、早期教育、人工内耳など幅広いテーマで議論しました。なぜ必要なのか、それぞれの立場と経験から話し合いました。世界の模範となるアメリカも約10年ごとに手話教育、口話教育とゆれているそうです。現在は手話による教育を実践しています。人工内耳についての課題では、賛成か反対ではなく、0歳から付けるべきかそれとも15歳まで待つべきか、どちらにしても必ず付けるべきという難しい判断でした。

Tom 教授の説明を受けていると、結局答えのない難しい課題なのだと感じました。大切なことは児童生徒一人ひとりのニーズにあわせた教育をしていく必要があるということなのだと実感しました。

○生活面

長い冬休みも終了し学校が始まると、懐かしい顔に再会でき気持ちを新たにすることができました。秋学期では同じクラスだった仲間ともクラスがバラバラになり、時間を合わせなければ会うことが難しくなっていました。そのため、みんなで声を掛け合い切磋琢磨しあいました。この春学期で一番印象に残っていることは、ひたすら勉強…の日々です。秋学期に比べ、課題の量のはるかに増えたため、初めは戸惑いました。聴クラスの授業や課題のペースに慣れるまでに時間がかかり、ろうクラスの課題がやや遅れぎみになってしまいました。それでも熱心に指導して下さった Nancy 教授に心から感謝します。まさに私の目標とす

る教育者です。オーロニ大学はろう研究室が18時半、図書館が20時には閉ま
ってしまい、さらに週末は開放していないため、時間に余裕のある喫茶店で22
時まで課題をこなす毎日でした。私は人の目がある方が集中できるので、とても
いい環境で勉強することができました。テストで高得点が取れたり、納得いくエ
ッセイが書けたりしたときには、やりがいを感じることができました。

一方、勉強だけではありません。アメリカの新しい顔をのぞきにも出かけまし
た。シアトルのきれいな海を見たり、オレゴン州にあるオーガニックな野菜を食
べたりしました。たくさんの課題で心に負担がかかっていた中、新鮮な景色や野
菜を肌で感じることができ、良い気分転換になりました。5月末には一年間とも
に切磋琢磨し合った仲間がそれぞれの国へ帰国しました。様々な議題で真剣に話
し合った仲間との別れは寂しかったのですが、再会を誓い、それぞれの目標へ歩
み始めました。

夏休みはサマークラスを受講する予定です。オーロニ大学での最後の授業。さ
らに気を引き締めて頑張りたいと思います。